

第2節 スポーツによる地域の活性化—宮城県仙台市を事例に—

三浦拓也

1. テーマ設定の理由

私は、本学に編入する前の2年間、宮城県仙台市で一人暮らしをしていた。高校卒業まで青森県八戸市で育った私にとって、仙台市はまさに「大都市」であった。そのように感じた理由のひとつが、プロスポーツチームの存在である。仙台駅を歩いていると、ベガルタ仙台や東北楽天ゴールデンイーグルスのユニフォームを着た人々の姿をよく目にする。八戸市で育った私はプロスポーツの試合をテレビで観ることが当たり前だったため、自分が住む街にJリーグやプロ野球のチームの拠点が置かれていることは、とても魅力的だった。このような経験からスポーツの力による地域の活性化について興味を持ち、テーマとすることにした。なお、私が考える地域が活性化している状態とは、市民が主体となり、行政、企業が一体となって地域に根差した活動が行われている状態である。

2. 仙台市とスポーツ¹

仙台市には多くのスポーツチームが存在している。プロスポーツチームとしては、サッカーJリーグの「ベガルタ仙台」、プロ野球の「東北楽天ゴールデンイーグルス」、プロバスケットボールbjリーグの「仙台89ERS」の3チームがある。さらに、バレーボール女子チャレンジリーグの「仙台ベルフィーユ」、サッカー女子チャレンジリーグ「ベガルタ仙台レディース」なども地元のスポーツチームとして活動している。スポーツイベントとしては、仙台国際ハーフマラソン大会などが開催されている。

このように、多くのスポーツチームが存在し、スポーツイベントも開催されるため、仙台市では1年を通してスポーツを楽しむことができる。仙台市は、先ほど述べたように3つのプロスポーツチームが本拠地としているが、それぞれの球団に官民一体となった支援組織(ベガルタ仙台ホームタウン協議会、楽天イーグルス・マイチーム協議会、仙台89ERSとともにまちづくりをすすめる会「イエローブースターズ」)が存在する日本唯一の街である。さらに、各支援組織が持つ知識、機能、情報、事業を連携させ相乗効果をもたらすことを目指して、仙台プロスポーツネットが設立されている。また、仙台市は2011年の東日本大震災で被災しており、震災からの復興という点でも、スポーツの役割、スポーツが与える影響は大きく、仙台市とスポーツの関係性は強いと言えるだろう。

3. 仙台プロスポーツネット

仙台市に最初にできたプロスポーツチームは、サッカーJリーグの「ベガルタ仙台」である。ベガルタ仙台は、河北新報、アイリスオーヤマなど地元企業がスポンサーとなっており、ベガルタ仙台を中心とした地域づくりが進められることとなった。その後、2004年に東北地方を本拠地とする初めてのプロ野球チーム「東北楽天ゴールデンイーグルス」、2005年には日本プロバスケットボールリーグ(bjリーグ)に所属する「仙台89ERS」が誕生した。この3球団それぞれに官民一体となった支援組織が存在し、地域密着、地域貢

¹ 仙台市スポーツ振興課 仙台市公式ウェブサイト

<https://www.city.sendai.jp/manabu/sports/event/1277.html> (最終閲覧 2014/6/29)

献を目指して培った経験、ノウハウを持っている。しかし、各球団の規模やターゲットは異なるため、球団同士だけで連携していくのは難しい。そこで、3球団の支援組織の連携を促し、支えていくことを目指して仙台市スポーツ振興課を事務局に「仙台プロスポーツネット」が設立された。

活動内容に関しては、仙台市スポーツ振興課の仙台プロスポーツネットの担当者から直接お話しを聞き、資料も頂くことができた。昨年度は、大きな主催事業として、3球団の観戦ラリーを行い、ベガルタ仙台、楽天イーグルス、仙台89ERSの試合を一定期間内に2球団以上を観戦した人に抽選でグッズをプレゼントしている。また、仙台市中心部商店街と連携事業も行い、商店街で仙台89ERSの選手紹介、楽天イーグルスの新人選手のお披露目などをして、市民へのPRと商店街の盛り上げを図った。2014年は、在仙プロチームのホームゲームガイドを作成、配布している。このガイドでは、各球団のホームゲームの日程がひとつのカレンダーにまとめられている。目的は、楽天イーグルスの試合を観た人に対して、次はベガルタ仙台、仙台89ERSの試合観戦を促すことである。楽天イーグルスは、昨年日本一に輝いたこともあり、今年の観客動員数も多い。一方で、ベガルタ仙台は開幕から不調なこともあり観客動員数が少なく、ベガルタ仙台の観客だった人たちが楽天イーグルスの方に流れているというのが現状である。仙台プロスポーツネットは在仙プロスポーツチーム全てが盛り上がりを見せる状態を理想としている。その実現のために、主に観客数の多い楽天イーグルスの試合でガイドを配ることにより効率的に人々に情報を流し、ベガルタ仙台、仙台89ERSのホームゲーム観客数の増加を図っている。²

このように、仙台プロスポーツネットでは、市民参加とスポーツチームの地域密着の二つを大きな柱として活動を展開している。担当者の方にスポーツによって地域が活性化している状態とはどのような状態だと考えているのかを質問したところ、二つの点を挙げてくださった。第一に、交流人口が拡大し、試合観戦に来た人々が経済効果をもたらす状態とおっしゃっており、スポーツはお金をまわしていくための手段のひとつだと捉えていた。第二に、スポーツチームが地域に根差し、それを核に地域が盛り上がっている状態だとおっしゃっていた。仙台プロスポーツネットでは、今後も地道にスポーツチームの地域に密着した活動を支えていきたいということだった。

4. プロスポーツチームの地域貢献活動

(1)ベガルタ仙台³

地域密着推進事業として、サッカー教室、指導者講習会、各種スポーツ教室などを開催している。下部組織としてアカデミーを設置し、ユース(高校生)、ジュニアユース(中学生)、ジュニア(小学生)の各世代の育成を行い、一貫した指導により地元からトップチームに選手を輩出しようと努めている。環境に配慮した活動にも力を入れており、選手、フロント、ボランティアによる泉中央地区周辺の清掃活動が行われている。また、県内に在住の65歳以上の高齢者を対象にした「シルバー招待」や児童養護施設等に入所する児童を対

² 仙台プロスポーツネット第27回会議 2013年7月1日

³ ベガルタ仙台オフィシャルサイト

http://www.vegalta.co.jp/hometown/hometown_about.html (最終閲覧 2014/6/29)

第1章—第2節

象にした招待事業も行っている。広報事業としては、地下鉄の駅などに広告を掲示し人々へPRしている。スポーツ振興課の方の話によると、今シーズンはチームが開幕から不調なこともあって観客動員数も少なかったが、生え抜きの渡辺晋氏を新監督に据え、監督自らが商店街での広報活動に取り組んだことで、集客の改善がみられている。ちなみに、ベガルタ仙台はJリーグ総合満足度で、2012年と2013年の2年連続で1位に輝いており、サポーターからの評価も高い。⁴

(2)東北楽天ゴールデンイーグルス⁵

「地域密着」の実現をめざし、市民が直接球団運営に参加できるようプロ野球史上初の試みとなるボランティアスタッフ制度を採用している。ゴミの分別の協力を呼びかけるエコボランティア、試合の運営を支える運営ボランティア、スタジアムの見学の案内役を行うスタジアム案内ボランティア、急病人の救護にあたる医療ボランティアと4つの分野で約400人、幅広い年齢層のスタッフによって支えられている。2008年以降は、来場者への環境活動の啓発を目的に、毎年8月にエコを学ぶ特設ブース「エコブース」を展開している。活動は確実に成果を上げており、2013年には約31.3tのCO₂を削減した。ボランティア以外の活動では、他の企業の協力により少年野球チームや福祉団体などの人々をホームゲームに招待し、野球観戦を通じて夢や希望を与える活動「ドリームシート」を行っている。2010年以降招待者数は増え続けており、2013年には約15000人を招待している。さらに、現役選手が小学校を訪問して子どもたちとキャッチボールをしたり、元プロ選手のジュニアコーチが小中学生を対象に参加無料の野球塾を開催したりしている。

(3)仙台89ERS⁶

仙台市内の活性化、バスケットボールの普及を目的に市内の保育所、幼稚園、小中学校を訪問し、1シーズンで約20箇所2000人の子どもたちと交流している。その他に、小中高生を対象にクリニックの開催や講師派遣を行い、選手たちが直接子どもたちを指導している。エコ活動にも取り組み、ごみの削減、分別回収を呼びかけている。

5. スポーツと経済⁷

スポーツが地域に与える影響のひとつとして、地域経済への影響が挙げられる。ベガルタ仙台、東北楽天ゴールデンイーグルス、仙台89ERSの3つのプロスポーツチームが宮城県にもたらす経済効果についてのデータがある。

ベガルタ仙台は2013シーズンのホームゲームの開催によって、観客の入場料、交通費、

⁴ Jリーグ満足度調査

<http://www.ae.keio.ac.jp/~hsuzuki/soccer/> (最終閲覧 2014/6/29)

⁵ 東北楽天ゴールデンイーグルスオフィシャルサイト

<http://www.rakuteneagles.jp/index2.php> (最終閲覧 2014/6/29)

⁶ 仙台89ERSオフィシャルウェブサイト

<http://www.89ers.jp/community/index.html> (最終閲覧 2014/6/29)

⁷ 震災復興・企画総務課 宮城県公式ウェブサイト

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kikakusom/> (最終閲覧 2014/6/29)

第1章—第2節

飲食費、グッズ購入費や各産業への波及効果を含め約 23 億円の経済効果があったと見込まれる。2012 シーズンは、約 25 億円の経済効果が生まれたとされている。

同様に、東北楽天ゴールデンイーグルスは2013シーズン、CS(クライマックスシリーズ)、日本シリーズを合わせて、約 230 億円の経済効果が見込まれている。なお、楽天イーグルスは、新規参入以来の 9 年で、累計約 1380 億円もの経済効果を生んでいる。

仙台 89ERS では、2009-2010 シーズンで約 5.4 億円、前年の 2008-2009 シーズンで約 6 億円の経済波及効果があったと見込まれる。

このデータから、宮城県において在仙プロスポーツチームは、経済面で大きな効果を与えていることは間違いないだろう。

6. スポーツがもたらす人々への精神的影響

私は仙台市に住んでいたとき、一度だけベガルタ仙台のホームゲームを観戦したことがある。初めて生で Jリーグの試合を観たときのことを思い返すと、試合の内容よりも応援に来ていたサポーターの熱気が記憶に残っている。地元が仙台でない私は、正直ベガルタ仙台に強い愛着はなく、ベガルタファンというよりサッカーファンとして試合を観に行っていた。そこで、全力で選手を応援するサポーターの姿を目の当たりにし、驚愕した。ベガルタ仙台は、常に優勝争いをするような強豪チームではなく、いわゆるスター選手が所属しているわけでもない。失礼かもしれないが、どうしてこのようなチームにここまでサポーターが熱狂するのかとても不思議だった。この地元のサポーターとよそ者の私の温度差から、地元の人々が持つベガルタ仙台への強い誇りを感じた。試合前やハーフタイム、試合後には、サポーター同士の交流があり、人々のつながりの場にもなっていた。何度もスタジアムに足を運んでいる人どうしだけが交流しているわけではなく、初めて観戦に行った私に対しても温かく接してくれた。この経験から、スポーツチームの存在によって人々が気軽にスポーツ観戦を楽しむことができるだけでなく、サポーターどうしのつながりによりスタジアムが人々の居場所になっていることがわかった。自分の居場所があるということは、地域への愛着、誇りを持つことにも通じる。このことから、スポーツチームは人々の精神面にポジティブな影響を与えられらる。

7. スポーツツーリズムの可能性

私自身が仙台市に住んでいた経験や仙台市で暮らす友人の話から考えてみると、仙台市には目立った観光地がほとんどないように感じる。お話をしてくださった仙台市スポーツ振興課の方も仙台市は観光資源に乏しいということをおっしゃっていた。そのような仙台市において、スポーツチームの存在やスポーツイベントの開催は、観光資源としての側面も強い。しかし、仙台市に観光資源が全くないということではない。杜の都をつくった伊達政宗が築いた青葉城、食べ物では牛タンや笹かまぼこなどが有名である。都市機能と自然が調和した街並みを生かして、春は青葉まつり、夏は七夕まつり、冬は光のページェントなどが中心街で催され、県内外から多くの人々が仙台市を訪れる。1年中楽しめるスポーツと仙台市の既存の観光資源を組み合わせることで、さらなる観光客の増加とそれに伴う経済効果、仙台市の魅力の発信につながるのではないだろうか。このようにプロスポーツなどの観戦や、マラソン、ウォーキングなどのスポーツイベントの参加を目的とし、開

催地周辺の観光とを組み合わせた旅行スタイルは「スポーツツーリズム」と呼ばれ、観光庁がその推進基本方針を出している。⁸仙台市は各地からのアクセスに優れ、電車、地下鉄、バスなど公共交通機関も充実しているため、スポーツツーリズムを進めていくには、適した地域だと言える。

観光庁のスポーツツーリズム推進基本方針を見てみると、国内からの観光客よりも外国人観光客をターゲットにしている面が強い。たしかに、グローバル化が進む現代社会では外国人観光客向けの事業を積極的に進めていく必要があるだろう。仙台市スポーツ振興課の方の話では、以前ベガルタ仙台でもタイを対象にした事業案があったということである。ベガルタ仙台がACL(アジアチャンピオンズリーグ)に参加した際に、仙台とタイとのつながりに注目し、タイの人々をターゲットにした事業を考えていた。この案は、飛行機の運航が終わったことから実現には至らなかったとおっしゃっていたが、交通手段が整えば実現の可能性があるだろう。担当者の方も、まずは地域の人や国内の人に試合観戦に足を運んでもらうことを目指しているが、他の部署や旅行代理店との連携を通じて海外からの観客も増やしていきたいという話をしてくださった。

以上のことから、仙台市は、スポーツツーリズムで成功する可能性を十分持っていると言える。外国人観光客が増えるとなると、それに伴い問題が生じるだろう。そのときには、行政や企業だけでなく市民が能動的に問題解決に向けて動いていく必要がある。

8. 展望

これまで述べてきたように、仙台市ではスポーツが地域の経済面、人々の精神面の両面で大きな影響を及ぼしており、今後もスポーツという視点から仙台市について考えていく必要があるだろう。仙台市は他の都市とは違い、プロスポーツチームがそれぞれ官民一体となった支援組織を持ち、それを連携させる仙台プロスポーツネットが存在しており、地域密着型のスポーツ振興はさらに活発になることが期待できる。これからは継続して地域密着を進めていくだけでなく、外からの人々を呼び込み、交流人口を拡大することが課題であろう。私はその解決手段として「スポーツツーリズム」の実践が効果的だと考える。そのためには行政や企業と共に、市民が積極的に地域に関わっていくことが求められる。市民がスポーツを支えていくことで、地域はよりいきいきとした状態になるのではないか。また、プロスポーツチームに限定せずスポーツチームを広く捉えることで、他の地域においても仙台市が実践しているスポーツの力を活かした地域づくりを活用できるに違いない。

東日本大震災から3年が経過し、仙台市中心部を歩いていると震災があったということは全く感じない。しかし、みえないところで今も苦しんでいる人が存在しており、復興したとは言えないのが現実である。東北最大の都市である仙台市を拠点とするプロスポーツチームは、被災地全体の復興、活性化に対しても大きな役割を果たすだろう。

⁸ 国土交通省観光庁

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/sports/> (最終閲覧 2014/6/29)